

教科	総合的な学習の時間	科目	—	単位	2	年次	中2
使用教科書	—						
副教材	—						

1. 担当者からのメッセージ (学習方法等)

総合的な学習の時間(Creative learning)においては、「つくる」ことを通し「深い自己探究から自己を肯定できる人」、「世界」を知り、他者と協働できる人」を目指し学びを進めていきます。その中において重要なことは、普段知覚できていない言語されないもの気づき、それを表出させ、再度言語化を試みるという過程にあります。語れる自己の発見は、他者理解にも繋がり、自らの人生をよりよく生きるための礎となしてほしいと願っています。また、探究的な学び方として、アート思考・デザイン思考・デバックの思想・ものの見方に焦点をあてて学びを展開していきます。生徒の皆さんには表現をあきらめないこと、自己を見捨てず、向き合い、その上で他者との繊細なコミュニケーションの獲得を目指し前向きに取り組んでほしいと思っています。

2. 学習の到達目標

「つくる」ことを柱とし、深い自己探究・自己をよさの発見・繊細な伝え合い・他者との協働を行い、『「わたし」を知り、自己を肯定できる人』と、『「世界」を知り、他者と協働できる人』を目指し、VUCAと呼ばれる変化が激しく不確実で予測が難しい現代において自ら問いを生み出し、その問いの解決に向かい他者とともにあゆみを進めていくことのできるものの見方や考え方、また知識や技能を獲得することを目標としています。

3. 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 主 旨	学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている探究的な学習のよさを理解している	実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している	実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協同的(協働的)に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に次の課題に取り組もうとしている
評 価 方 法	・リフレクションフォーム ・自己評価,相互評価の記述 ・教員による観察 ・キャプションの記述 ・成果物	・リフレクションフォーム ・自己評価,相互評価の記述 ・教員による観察 ・キャプションの記述 ・成果物	・リフレクションフォーム ・自己評価,相互評価の記述 ・教員による観察 ・キャプションの記述 ・成果物

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

月	単元	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価基準	評価方法
			a	b	c		
4	・オリエンテーション ・【アート思考】 →「わたしの発見」 ・【プログラミング学習】 →easel入門	・「つくる」とWell-being ・ブレインストーミング・KJ法 ・色と表現の探究 ・形の探究 ・Debugの考え方	○	○	○	・自己探求に関する5つの段階 ・自己肯定に関する5つの段階 ・他者理解に関する5つの段階 ・学びの蓄積とその分析 ・記述の言語量と変化	・ふりかえり記述 ・自己評価の記述 ・相互評価の記述 ・教員による観察 ・キャプション ・成果物 ・学びの過程の記録 ・自己の総合評価
5							
6							
7	・【デザイン思考】 →未来を見つめる ・【素材探究】 →「つくる」の裏側 ・【対話型鑑賞】 →「みる」の体験	・拡散から収束 ・プロトタイピングの実践 ・「もの」の生成と生活 ・「つかう」意味、「つくる」意味 ・「見る方法」と「見るの言語化」	○	○	○		
8							
9							
10							
11	・【アート思考】 →「Who am I」 ・軌跡の確認と俯瞰	・創出と言語化 ・展示から見えてくる自己と他者 ・「Well-being」の考え方					
12							
1							
2							
3							

※表中の観点について a: 知識・技能 b: 思考・判断・表現 c: 主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元 題材 で全ての観点について評価することとなるが、学習内容・小単元の各項目において重点的に評価を行う観点 もしくは重み付けを行う観点 について○を付けている。